

平成 28 年 7 月 11 日

中日新聞社 御中

岡崎市議会議長
蜂須賀 喜久好

平成 28 年 4 月 29 日から同年 5 月 24 日までの間に貴社が掲載した記事は、事実と異なる内容や公正さを欠くと思われます。

このことは、正確かつ公正でなければならない新聞報道の在り方としては、甚だ疑問を感じざるを得ません。

一連の報道により読者に誤解を与えた結果、岡崎市議会の信用を失墜しましたので、貴紙面上にて訂正記事の掲載を求めます。

掲載日	貴紙掲載内容	事実に基づく内容
4 月 29 日	市議会には、市民などからの苦情や情報提供もあった	当該女性から相談を受けた以外の苦情や情報提供はない。市議会又は議会事務局に何ら取材することなく、正確さを欠く
5 月 3 日	三浦議員は女性に対し、いったんは謝罪する意向を示したものの、その後、拒んでいた。 (当該女性の方から、「謝ってもらいたい」と申し出があったことを明記していない)	三浦議員が文書による謝罪を拒否した後に当該女性は、いったんは口頭による謝罪を受け入れる意向を示した。しかし、その直後に、当該女性から「謝ってもらいたい」と申し出があったのが事実であり、市議会又は議会事務局に何ら取材することなく、正確さを欠く
5 月 24 日	セクハラ行為は公然化していた。	岡崎市議会への取材もなく、このような断定的な記載は公正さを欠く。「公然化していた」と記載した根拠を示してください
	女性は「女性蔑視を許す岡崎市議会の体質を改めてほしい」と話している	当該女性の発言とはいえ、岡崎市議会の体質に関して他の女性市議に確認することなくこのような断定的な記載をすることは公正さを欠く。また、女性市議

		<p>5人中、4人は女性蔑視を感じていないことをアンケート結果として貴紙記者に説明したが、記事ではこのことに一切触れていないのは公正さを欠く</p>
	<p>蜂須賀喜久好議長は・・・セクハラ行為の確認や責任追及を断念した</p>	<p>5月23日の記者会見で議長は、「今後の成り行きを静観して、見守っていく。で、次の展開が出れば議会として即対応する」こと及び女性議員の意向として「これ以上騒ぎを大きくしたくない」ということを貴紙記者にも説明した。にもかかわらず、その説明を無視して「断念した」という記載は、事実と異なる。</p>
	<p>「(セクハラ問題は) 議会事務局が対応すべきことではないので、持ち込まないでほしい。今後は事務局に相談しないように」と女性を口頭で注意した</p>	<p>議長の発言内容は、「議員同士の問題は正副議長に相談してください。事務局は議会運営事務を職務としているので、こういった問題を持ち込むのは慎んでほしい」である。</p> <p>また、あたかも議会事務局に相談することが正当であり、議長がそれを制止したかのような掲載内容は、読者に誤解を与え正確さに欠ける</p>